

幼稚園教諭養成課程における 「専門的知識・技術」に関する一考察

—美術表現活動に関する学生の意識調査を中心として—

辻 真 樹

はじめに

教育職員免許法施行規則の改正により新たに示された教職課程カリキュラムにて「教科に関する科目」が「領域に関する専門的事項」へと置き換えられた。

筆者は、本学教職課程「教科に関する科目」の『美術工芸Ⅰ』『美術工芸Ⅱ』を担当しているが、この変更に伴い、令和4年度に「大学が独自に設定する科目」として新設予定である『美術工芸Ⅰ』『美術工芸Ⅱ』（いずれも仮称）を担当予定である。

本考察は、筆者が新設科目を担当するにあたり、従前の教授内容を本学新カリキュラム内にどのように位置付けるべきなのかを検討したうえで、筆者が現行科目履修者に行ったアンケート結果をはじめとする資料を分析し、担当科目に求められている教授内容を構想することを目的とする。

本考察第1章では、本学新カリキュラムを検討するうえでの前提条件となる教職課程改革の流れと新課程での変更点を確認する。第2章では、新課程に応じた本学カリキュラムを構築するうえでの課題を示し、第3章にて課題へ対応するために本学新カリキュラムの構想を行う。なお、筆者担当科目が「大学が独自に設定する科目」として開設予定であることから分かるように、すでに本学新カリキュラムについては筆者と学科長らとで構想が進められてお

り、本考察第1章から第3章は、今後文部科学省に届出を行うにあたり、現時点での構想とそれに至った理由とを整理し確認するものでもある。最後に第4章では、第3章にて構想したカリキュラムのうち、筆者が担当予定の新設科目で教授すべき「専門的知識・技術」とはどのようなものであるのか、各種資料の分析をもとに構想する。

今後は「大学が独自に設定する科目」として新設予定の科目群においても同様の考察を行い、「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～（答申）」（以下「平成27年答申」という。）にて求められている「大学の創意工夫により質の高い教職課程を編成する」¹⁾ ことを将来的な目標とする。

I 教職課程改革について

I-1. 教職課程改革の背景と流れ

新たな教職課程におけるカリキュラム構成を検討するため、まずはその改革の背景と経緯、新たに示された教職課程の科目構成を確認する。

平成27答申において、教員養成に関する改革の背景とその具体的な方向性として次の内容が示された。

検討の背景

- 教育課程・授業方法の改革（アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善、教科等を越えたカリキュラム・マネジメント）への対応
- 英語、道徳、ICT、特別支援教育等、新たな

令和2年11月30日受理
連絡先 〒769-0201 香川県綾歌郡宇多津町浜一番丁10番地
香川短期大学 子ども学科
TEL 0877(49)5500 FAX 0877(49)5252
Email tsuji@kjc.ac.jp

課題への対応

○「チーム学校」の実現

○社会環境の急速な変化

○学校を取り巻く環境変化

- ・大量退職・大量採用→年齢、経験年数の不均衡による弊害
- ・学校教育課題の多様化・複雑化²⁾

教員養成に関する改革の具体的な方向性

- ◆教員免許状の取得に必要な単位数は増加させないことを前提として、新たな教育課題に対応できるよう教職課程の内容を精選・重点化する。
- ◆国立の教員養成を目的とする大学・学部は、地域のニーズを踏まえつつ、新たな教育課題に対応した取組を率先して実施し、他大学・学部におけるモデルを提示して、その取組を普及・啓発する。
- ◆教職課程については、学校種ごとの特性を踏まえつつ、「教科に関する科目」と「教職に関する科目」等の科目区分を撤廃し、新たな教育課題等に対応できるよう見直す。
- ◆国は、学校インターンシップの実施について、教育実習との役割分担を明確化しつつ、受入校、教育委員会、大学との連携体制の構築、大学による学生への適切な指導などの環境整備について検討する。また、学校インターンシップについては、教職課程において義務化はせず各大学の判断により教育実習の一部に充ててもよいこととする。
- ◆教職課程の質の保証・向上については、全学的に教職課程を統括する組織の設置についての努力義務化、教職課程における自己点検・評価の実施の制度化、教職課程の第三者評価を支援・促進するための方策などについて検討する。また、国、教育委員会、大学等は、教職課程の科目を担当する大学教員について、学校現場体験等の実践的内容や新たな教育課題に対応したFDなどを実施する。³⁾

この中で述べられている科目区分の撤廃については、次に示すように回答申内においてより具体的な

内容が示され、新たな教職課程の科目構成に大きな影響を与えることとなる。

①教職課程における科目の大きくくり化及び教科と教職の統合

大学の創意工夫により質の高い教職課程を編成することができるようにするため、教職課程において修得することが必要とされている科目の大きくくり化を行う必要がある。

特に、「教科に関する科目」と「教職に関する科目」の中の「教科の指導法」については、学校種ごとの教職課程の特性を踏まえつつも、大学によっては、例えば、両者を統合する科目や教科の内容及び構成に関する科目を設定するなど意欲的な取組が実施可能となるようにしていくことが重要であり、「教科に関する科目」と「教職に関する科目」等の科目区分を撤廃するのが望ましい。⁴⁾

平成27答申を受け、教員養成に関する課題として「必要単位数が法律に規定されており、新たな教育課題が生じても速やかな単位数の変更が困難」「学校現場の状況の変化や教育を巡る環境の変化に対応した教職課程になっていない」「大学教員の研究的関心に偏った授業が展開される傾向があり、教員として必要な学修が行われていない」ことがあげられ、平成28年11月に教育職員免許法の改正が行われた。これにより、教科の専門的内容と指導法を一体的に学ぶことを可能とするため「教科に関する科目」と「教職に関する科目」とが「教科及び教職に関する科目」へと大きくくり化され、大学の創意工夫により質の高い教職課程を編成することが可能となった。さらに、平成29年11月には、学校現場で必要とされる知識や技能を教員養成課程で獲得できるよう、教職課程の内容を充実するために教育職員免許法施行規則の改正が行われ、併せて全国大学の教職課程で共通的に修得すべき資質能力を明確化するため「教職課程コアカリキュラム」が周知された。こうして教職課程で履修すべき事項が約20年ぶりに全面的に見直され、平成30年度に改正法令及びコアカリキュラムを反映した教員養成の体制が確保されていることを審査・認定するために再課程認定が行われた。⁵⁾

I-2. 新教職課程での変更点

上記の流れにより、幼稚園教諭普通免許状の「教科に関する科目」について以下の変更が行われることとなった。

(1) 教育職員免許法施行規則上の科目区分の大括り化

教育職員免許法上の科目区分が大括り化されたことに加え、教育職員免許法施行規則上の科目区分を以下のとおり大括り化すること。

ア 教諭の普通免許状について（第2条第1項の表、第3条第1項の表、第4条第1項の表、第5条第1項の表関係）

現行の8つの科目（1教科に関する科目2教科又は教職に関する科目（以上法律上の科目区分）3教職の意義等に関する科目4教育の基礎理論に関する科目5教育課程及び指導法に関する科目6生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目7教育実習8教職実践演習）を以下の5つの科目とする。

1 教科及び教科の指導法に関する科目（幼稚園教諭の普通免許状の授与を受ける場合にあっては領域及び保育内容の指導法に関する科目）

2 教育の基礎的理解に関する科目

3 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目

4 教育実践に関する科目

5 大学が独自に設定する科目

※ 1の科目においては、教科（領域）に関する専門的事項の複数の事項を取り扱う科目や、教科（領域）に関する専門的事項を各教科（保育内容）の指導法と融合した科目の開設が可能となる。

<略>

(2) 履修事項の追加

<略>

イ 幼稚園教諭の普通免許状について（第2条第1項の表関係）

・改正前の教科に関する科目（小学校の国語、算数、生活、音楽、図画工作、体育）を領域に関する専門的事項（幼稚園教育要領で定め

る健康、人間関係、環境、言葉、表現）とした。（第2条第1項の表備考第1号）⁶⁾

なお、「領域に関する専門的事項」の科目については、教育職員免許法施行規則 附則（平成二九年十一月一七日文部科学省令第四一号）第7項（以下「附則第7項」という。）により次のように示された。

この省令の施行の日の前に幼稚園教諭の普通免許状の授与の所要資格を得させるための課程として文部科学大臣により認定された課程（旧法別表第一備考第三号の規定により文部科学大臣の指定を受けた教員養成機関を含む。）については、平成三十四年度までに入学し引き続き在学する学生に対し、この省令による改正にかかわらず、領域に関する専門的事項に関する科目の履修について、小学校の国語、算数、生活、音楽、図画工作及び体育の教科に関する専門的事項に関する科目のうち、一以上の科目について修得させることにより、第二条第一項の表備考第一号に規定する科目のうち一以上の科目を修得させたものとみなすことができる。⁷⁾

併せて、令和4年度末までには事後調査を受けることが示されており⁸⁾、平成30年度の幼稚園教諭養成課程の再課程認定においては「教科に関する科目」にて「領域に関する専門的事項」の科目を学生に履修させたとみなすことができたが、遅くとも令和5年度からは「領域に関する専門的事項」の科目を新設することが必要となった。なお、本学も附則第7項の経過措置を適用しており、令和4年度から「領域に関する専門的事項」の科目を設置する方向で現在構想中である。

II 新たな教職課程の課題

II-1. 「領域に関する専門的事項」の内容の取り扱い

前章で確認したように、全国の教職課程で共通的に修得すべき資質能力を明確化するため「教職課程コアカリキュラム」が作られたが、「（現行の）教科に関する科目（幼稚園教諭養成課程においては「領域に関する専門的事項」）」についてはコアカリキュ

ラムの整備は行われず、「領域に関する専門的事項」の教育内容は一般社団法人保育教諭養成課程研究会による報告書『平成28年度幼稚園教諭の養成課程のモデルカリキュラムの開発に向けた調査研究—幼稚園教諭の資質能力の視点から養成課程の質保証を考える—』（以下「モデルカリキュラム報告書」という。）にてモデルカリキュラムとして例示されるにとどまった（図Ⅱ-1⁹⁾）。

科目	単位	15	15	12
領域に関する専門的事項	15	15	12	
保育内容の指導法	10	10	8	
幼児理解の増進及び方法	7	7	7	
大学の独自に設定する科目	38	14	22	
合計	70	46	31	

図Ⅱ-1 コアカリキュラムを定める範囲⁹⁾

Ⅱ-2. 「領域に関する専門的事項」に求められる内容
「領域に関する専門的事項」に含まれるべき内容はモデルカリキュラムとして示されたものの、その位置づけは大学において検討する際に参考にされる程度のものであり、再課程認定の審査においては活用されるものではなかった¹⁰⁾。そのモデルカリキュラム報告書においても、「領域に関する専門的事項」の考え方は次のように示されるに留まっている

領域について、領域それぞれの学問的な背景や基盤となる考え方を学ぶことを基本とする。幼稚園教育において、「何をどのように指導するのか」という視点で見た時の「何を」にあたる部分である。幼稚園教育要領に示されているねらい及び内容を含めながら、これらに限定されることなく、より幅広く、より深い内容が求められる。¹¹⁾

また、「領域に関する専門的事項」の新設に伴って「教科に関する科目」が撤廃されたが、この改正により幼稚園教諭の小学校教育に対する理解が損なわれないよう、文部科学省初等中等教育局長通知

（以下「局長通知」という。）留意事項等において次のように述べられている。

今回の免許法施行規則の改正により、幼稚園教諭養成課程においては従来の小学校の教科に関する科目から、幼稚園教育要領に規定する領域に関する専門的事項について修得することとなったが、幼稚園教諭が小学校教育についての理解を深めることは引き続き重要であるため、各幼稚園教諭養成課程においては、教職課程コアカリキュラムが示すように、保育内容の指導法の科目の中で、小学校の教科等とのつながりを理解することを内容に含めること。また、大学が独自に設定する科目等を活用するなどし、小学校教育の理解に資する内容が取り扱われることが期待される。¹²⁾

以上のことから、本学新カリキュラムを構想するうえでの課題として、「教科に関する科目」で行われていた「幼小連携を意識した内容」を引き続き織り込めるカリキュラムの構築及び「領域に関する専門的事項」で学ぶ内容の具体化があげられる。

Ⅲ 本学教職課程におけるカリキュラム

Ⅲ-1. 幼小連携を意識した科目の設置

前章にて課題とした「幼小連携を意識した内容」を本学新カリキュラムに含めるのであれば、科目構成の面から次の3つの方向性が考えられる。

- ①「保育内容の指導法」の科目に、幼小連携を意識した内容を含める（局長通知）
- ②「領域に関する専門的事項」の科目に、幼小連携を意識した内容を含める¹³⁾
- ③「大学が独自に設定する科目」に、幼小連携を意識した内容を含める（局長通知）

Ⅲ-2. 教職課程としての求められているカリキュラム

本学としての科目構成を考えるにあたり、まずは教職課程として幼稚園教諭二種免許取得に必要な単位数を確認する。

旧課程では、「教科に関する科目」4単位、「教育

課程及び指導法に関する科目」12単位必要であったものが、新課程では「保育内容の指導法」と「領域に関する専門的事項」の科目とを合わせて12単位必要と変更された。また、「保育内容の指導法」の科目構成と内容は、「5領域の内容を含み、教職課程コアカリキュラムの内容を満たしている限りにおいて、大学で自由に設定することができる。『保育内容の指導法』を取り扱う科目の開設については、課程認定基準において規定はしていないため、保育内容総論及び5領域ごとの科目を開設することは必須ではない。」¹⁴⁾とされ、「領域に関する専門的事項」は、幼稚園教諭二種免許状の場合は4領域以上開設¹⁵⁾とされている。

Ⅲ-3. 本学教職課程のカリキュラム構想

本学の科目開設状況は、先にあげた附則第7項の経過措置を適用し、現在も「教科に関する科目」を4単位開設、「保育内容の指導法」に関する科目を8単位開設している。

よって、「保育内容の指導法」の科目構成を維持したうえで「領域に関する専門的事項」の科目として4領域ごとに1単位の科目を開設すると計12単位となり、要件を満たすこととなる。しかし、現在「教科に関する科目」として設置されている『音楽(2単位)』『美術工芸Ⅰ(1単位)』『子どもの体育Ⅰ(1単位)』を「領域に関する専門的事項」に割り振った場合、『音楽』『美術工芸Ⅰ』は「表現」領域、『子どもの体育Ⅰ』は「健康」領域となり、残り2領域分の科目開設が必要となる。そうすると免許取得に必要とされる単位数が現状を上回ることとなり、結果として学生の負担も増加し、授業時間外の学修の確保が現状よりも困難となることが予想される。また、科目数は増やさず、「教科に関する科目」の内容を「保育内容の指導法」の科目に織り込むことも想定できるが、教授内容が薄まり、現状の教育効果が維持できないことが懸念される。

次に「大学が独自に設定する科目」は2単位必要とされているが、「大学が独自に設定する科目」を開設せず、最低修得単位を超えて履修した「領域及び保育内容の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科

目」「教育実践に関する科目」について併せて2単位以上を修得することも認められており¹⁶⁾、本学も「大学が独自に設定する科目」は開設せず、「教育の基礎的理解に関する科目」の基準単位数から超過した4単位にて修得としている。しかしながら、本考察では詳細は省くが「教育の基礎的理解に関する科目」についても学生の負担軽減を目的として学科長らと精査を行っており、令和4年度に向けて科目を整理する予定であるため、今後も同様の措置を行えるかは未定である。

また、「大学が独自に設定する科目」の内容としては、「①教科(領域)に関する専門的事項、②旧教職に関する科目、③教科(領域)に関する専門的事項に準ずる事項(新たに追加)、④旧教職に関する科目に準ずる科目」¹⁷⁾があげられており、加えて「教科に関する科目」を「大学が独自に設定する科目」として開設することは、科目内容が幼小連携を意識した内容であれば可能である事が示されている¹⁸⁾。

以上の事を踏まえて学科長らとの検討の結果、本学の状況を鑑みⅢ-1③の「大学が独自に設定する科目」に「教科に関する科目」を「幼小連携を意識した内容の科目」として設置することが現状の教育効果を維持するうえで最適であると判断された。なお、もう一つの課題としてあげた「領域に関する専門的事項」で学ぶ内容の具体化については、まだ報告できる内容に至っていないため省略する。

以上が現時点での構想とそこに至った理由であるが、「幼小連携を意識した内容の科目」を「大学が独自に設定する科目」の中で新設するのであれば、その具体的な教授内容とはどのようなものであろうか。次の章にて、筆者担当予定科目についてその構想を進めていきたい。

Ⅳ 美術表現に関する新設科目に求められる内容

Ⅳ-1. 美術表現に関する新設科目に求められる内容とは

前章まででまとめてきたように、学生が幼小連携を理解できるよう、「教科に関する科目」を「大学が独自に設定する科目」として設置することを学科長らと構想中であり、筆者はその新設科目群のうち美術表現に関する科目を担当予定である。

幼稚園教育要領における「表現」領域の美術表現活動と小学校学習指導要領における教科「図画工作」は異なる土台ではあるものの関連する部分は多く、学生にとってその接続を意識した知識・技術（技能）を修得することは重要と考えられる。

では、その具体的な科目内容はどのようなものが求められているのであろうか。平成27答申では教員養成の課題の一つとして「教員としての職能成長が教職生活全体を通じて行われるものであることを踏まえ、養成段階は、『教員となる際に必要な最低限の基礎的・基盤的な学修』を行う段階であることを改めて認識することが重要である。」¹⁹⁾ことがあげられている。

担当科目の具体的な内容を検討するため、この「教員となる際に必要な最低限の基礎的・基盤的な学修」から得られるべき専門的知識・技術（技能）とはどのようなものが求められているのか、『幼稚園教育要領解説』、本学卒業生の就職先へのアンケート、筆者が授業の中で行ったアンケートの3点から探ってきたい。

IV-2. 『幼稚園教育要領解説』の中で幼稚園教諭に求められている専門的知識・技術（技能）

『幼稚園教育要領解説』を確認すると、美術表現的な場面において、教師には次のような専門的知識・技術（技能）が求められている。

○幼児が自分から興味をもって、遊具や用具、素材についてふさわしい関わりができるように、遊具や用具、素材の種類、数量及び配置を考えることが必要である。²⁰⁾

○教師は、一人一人の幼児が様々な表現する楽しさを大切にするとともに、多様な素材や用具に触れながらイメージやアイデアが生まれるように、環境を整えていく。²¹⁾

○また、教師自身にも、幼稚園生活の様々な場面で幼児が心を動かされている出来事を共に感動できる感性が求められる。例えば、絵の具の色の変化に驚いたり、悲しい物語に心を動かされたりするなど、幼児と感動を共有することが大切である。²²⁾

○このように、それぞれの遊びの中で、幼児が自己表現をしようとする気持ちを捉え、必要な素

材や用具を用意したり、援助したりしながら、幼児の表現意欲を満足させ、表現する喜びを十分に味わわせることが必要である。²³⁾

○教師は、幼児のもっているイメージがどのように遊びの中に表現されているかを理解しながら、そのイメージの世界を十分に楽しめるように、イメージを表現するための道具や用具、素材を用意し、幼児と共に環境を構成していくことが大切である。²⁴⁾

○段ボール箱という素材との関わりから、お家ごっこや乗り物遊びなど新たに遊びが展開する様子が見えたら、遊びに必要なものを作ることができるように、イメージが実現しやすいような素材を多様に用意することも重要である。教師は、このような変化を的確に把握し、物や場といった物的環境をつくり直し、さらに、必要な援助を重ね、幼児の発達にとって意味のある状況をつくり出すことが求められる。²⁵⁾

○そして、その活動に取り組みやすい場をどのようにつくり出すか、どのような遊具や用具、素材が必要か、幼児は何を望んでいるかを考えながら状況づくりをしていかなければならない。²⁶⁾

以上のことから、教師に求められている専門的知識・技術（技能）として、多様な素材・用具の知識を持ち場面に応じてそれらを活用できること、幼児の気持ちを捉えその気持ちに共感し寄り添えること等が読み取れる。

IV-3. 卒業生の就職先から求められている専門的知識・技術（技能）

次に、本学キャリア支援センターが行った、卒業生が就職した園へのアンケート結果を確認すると、本学に期待することとして次のような意見があげられている。

○子どもの気持ちを引きつける手遊び、わらべうた等の種類を増し、先輩保育士にも目新しい保育を紹介してほしい。

○ピアノの技術面、学生さんに授業で多くとり入れてほしい。

○音楽・身体表現などの素養。

○保育の専門性の向上（心理や表現など保育全般における専門性）。

○実践能力の充実した教育（知識よりも・・・）

以上のことから、就職先から教員養成校に対して、知識だけではなくそれらを現場にて実践する能力を獲得させることも求められていることが読み取れる。

IV-4. 本学教職課程の学生が将来必要と考えている専門的知識・技術（技能）

最後に、筆者が現行授業の中で行ったアンケートの結果から、本学教職課程の学生は将来どのような美術表現に関する専門的知識・技術（技能）が求められていると考えているのか、今後どのような専門的知識・技術（技能）を身に付けたいと考えているのか、また授業を受けたことによる美術表現活動を指導するうえでの自信の変化を確認し、当該授業の学修成果について分析する（アンケートの内容は資料参照）。

IV-4-1. アンケートについて

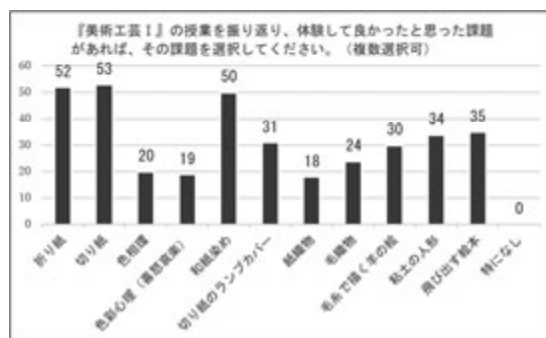
本アンケートは、本学が行っている授業改善のためのアンケートではなく、筆者が授業内で独自に行ったものである。

アンケート対象者は筆者の担当する『美術工芸Ⅰ』履修者（子ども学科第Ⅰ部1年生52名、子ども学科第Ⅲ部1年生38名、子ども学科第Ⅲ部3年生1名（再履修者）の計91名）、実施時期は入学から半年程度経過した最後の授業終了後（令和2年9月17日～18日）、その内容は「授業の内容に関するアンケート」と「保育者としての意識に関するアンケート」とに大きく分けられる。

IV-4-2. アンケート結果

イ) 授業の内容に関するアンケート結果

①授業の中で体験して良かったと思った課題（複数回答可）（図Ⅳ-1）



図Ⅳ-1 授業の中で体験して良かったと思った課題

②体験して良かったと思った理由（上位のものについて抜粋）（表Ⅳ-1）

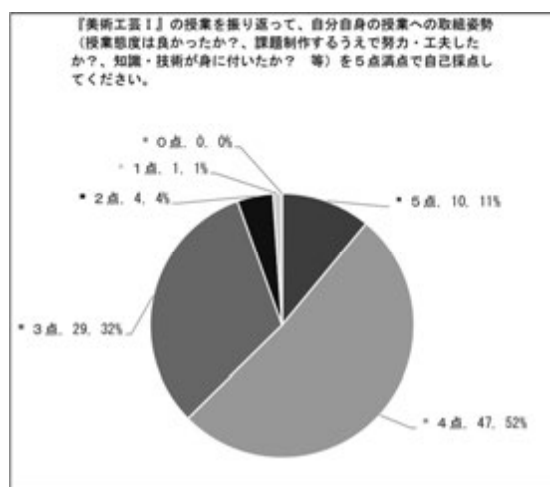
表Ⅳ-1 体験して良かったと思った理由（上位のものについて抜粋・原文ママ）

- 仕事について時使えそうだから。
- 和紙染めは子供と楽しんで出来そう
- 折り紙は保育所や幼稚園などでも多く使われることが多いと思うので
- 実習や、将来役立つと感じたから。
- 実際に現場で生かせる事が可能だし、これは子どもにもぜひ体験させたいと思いました
- 折り紙が不得意だったので働く前に学べて良かったです。
- 折り紙は子ども達がよく折っているし自分も多くの種類を折れると子ども達との距離が縮まるだけでなく雨の日などにお部屋で集中して時間いっぱい取り組む事を自然に促せると思ったから
- 折り紙は、3歳から5歳くらいの子供と一緒に折れるものは何か調べて実際に折ることで将来やってみたい気持ちが高まったからです。
- 子どもたちでも簡単に楽しく活動できることだと思ったから。
- 保育士になった時に、子供たちに教えてあげられるし、装飾に使えるから
- 将来保育士になった時に年齢によって、手の動きや想像力も変わってくると思います。その時に、切り紙であればどう折ってどう切ったらどんな形になるのか、年齢に合わせて難易度を上げていくのも頭を使う作業

にいいかなと思いました。色の混ぜ合わせもこれから小学校に上がっても使うことなので知っておくべきことだと思いました。

「折り紙」「切り紙」「和紙染め」がほぼ同数で上位であり、その理由は「将来就職先で活用できそう」といった内容が多く見られた。また、入学後半年程度の時期ではあるが、「雨の日などにお部屋で集中して時間いっぱい取り組む事を自然に促せると思った」のような現場での活動を意識した回答や、「色の混ぜ合わせもこれから小学校に上がっても使うことなので知っておくべきことだと思いました」のような幼小連携を意識した回答も見られた。

③授業を振り返っての、その取り組み姿勢に対する自己評価（図Ⅳ-2）



図Ⅳ-2 授業を振り返っての、その取り組み姿勢に対する自己評価

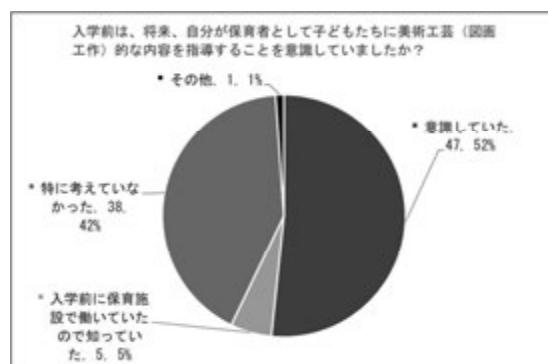
履修者のほぼ半数が自己採点を4点としていた。

その採点理由を問うた回答結果の掲載は省くが、「提出期日を守った」「丁寧に制作した」「工夫して制作した」といった内容が多く見られた。

自己採点の根拠からは、授業内のどのような活動が自己評価に影響するのかが読み取れると考えられるため、今後、自己採点理由の分析や自己採点と実際の成績評価との関連等を含め、改めて調査を行いたい。

ロ) 保育者としての意識に関するアンケート結果

④入学前の美術表現的な活動指導に対する意識（図Ⅳ-3）

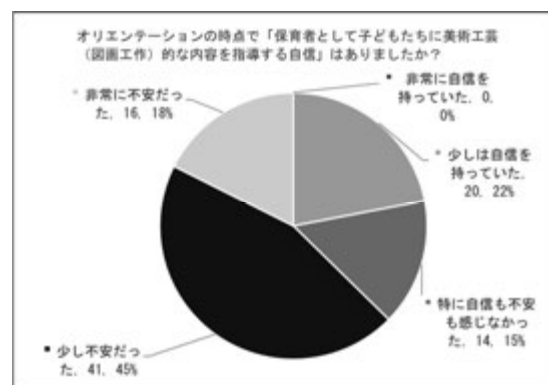


図Ⅳ-3 入学前の美術表現的な活動指導に対する意識

※その他は「入学前に小学校で勤めていたので知っていた。」

履修者のほぼ半数が、入学前から子ども達に対して美術表現的な活動の指導を行うことを意識していたことが分かった。今後「美術表現」だけでなく「音楽表現」「身体表現」等についても同様の調査を行い、それぞれに対する意識等を比較したいと考える。

⑤授業受講前の美術表現的な内容を指導する自信（図Ⅳ-4）

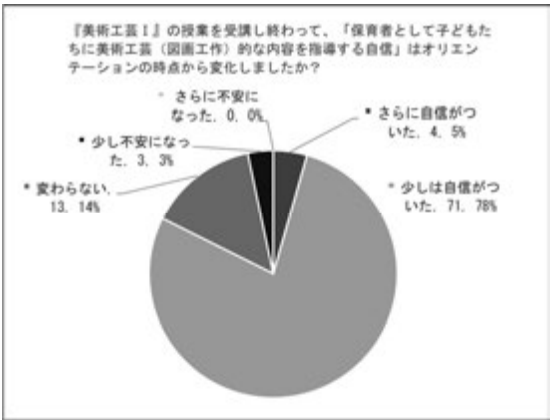


図Ⅳ-4 授業受講前の美術表現的な内容を指導する自信

美術表現的な内容を指導することに対して、受講前に「非常に自信を持っていた」は0名であり、「少

し自信を持っていた」が20名（22%）,「特に自信も不安も感じなかった」が14名（15%）,「少し不安だった」と「非常に不安だった」とを合わせると57名（63%）と、半数以上の学生が将来子ども達に美術表現的な内容を指導することに対して何らかの不安を感じていることが分かった。

⑥授業受講後の美術表現的な内容を指導する自信
(図Ⅳ-5)



図Ⅳ-5 授業受講後の美術表現的な内容を指導する自信

⑦授業受講後に美術表現的な内容を指導する自信
が変化し理由 (表Ⅳ-2)

表Ⅳ-2 授業受講後に美術表現的な内容を指導する自信が変化し理由 (抜粋・原文ママ)

○受講後に自信がついた理由
● 子どもたちにあった遊びの選択肢が広がったと思ったから。
● 授業を通して知識が増え、少し自信ができました。
● 勝手に美術に苦手意識を出していたけど実際にみたら自分の個性を出せるのがとても良かった。
● 実際に施設実習で授業でやったことを生かすことが出来たから。
● オリエンテーション前は、自分は図画工作に詳しくないから、果たしてしっかりと指導ができるのだろうかと不安でいっぱいでしたが、授業を通して、自分にもできるこ

- とがあるのだと、自分に対して少し自身をつけることができました。
- 違う子を見てそれで色々なアイデアを吸収することができたから
 - プリントを使って詳しく説明をしてくださったので、保育士になったときに指導するときに活用しやすく、自分が一度体験していることにより、楽しくできたり、難しいところのサポートなどしやすいと思いました。
 - 不安が少し解消した理由は今まで美術で習った紙を全部ファイルに閉じてあるのでそれを参考にできるから。
 - 以前は図工を教えるとき自分で調べ作ってみるものの自信がなくていつも主任の先生や美術のお得意な先生の所へ行ったりやり方を伝授していただきお手本もいただいていた。でも美術を習ったことで少し知識が広くなったと思うので以前のやり方に加えてできることが増えたのではと思いました。
 - 自分で体験することによって工夫する点や難しいと思う点を理解でき、子どもたちに教えることや伝え方を学ぶことができたと思ったから。
 - どんな活動が子どもが楽しめるか、体験することで考えることができ、自信ができました。発達に応じた活動の仕方の知識ができました。
 - 同じ内容を子どもに教えるとしても年齢によって出来るが変わるので、どの程度まで子どもに作業させるかということを実際に自分で作業したことにより、3歳の子どもでもこれくらいだったら出来るかな？など考えながら作業できました。
 - 今まで、ボンドやノリや絵の具をあるものを使っていいかと思っていただけ、美術工芸をとってからは、状況に合わせて、作品をつくる道具も変えていくとうまく作れることが理解できたので、将来保育者になった際に役立てると思ったので少し自信ができました。
 - 最初は、指導は怖いと思っていましたが、授業を受けて少しずつですが自信がわいてきました。ですが、作るのと教えることは難しいと思うのでこれからたくさん学んでいきたいと思っています。
 - どの分野が自分は苦手なのか、苦手だから

どうしたらよいのか、どのようにしたら色が綺麗に入るかなど授業を通して皆の作品を見て学べたから。

○授業前に不安を感じていて、受講後も変わらなかった理由

- 授業で美術についての知識は身につけられたけど、果たしてそれを自分が使いこなすことが出来るのか逆に不安になった。
- 美術のセンスがないと気づいた

○受講後に不安が増した理由

- 自分で作ることはできるけど自分が子どもたちに指導していくことになるのは難しいと思ったからです。
- 1部の視点でしか考えられていないと感じたから。発想力、想像力にかけているなどと思った。

「さらに自信がついた」と「少しは自信がついた」とを合わせて75名(83%)、「変わらない」13名(14%)、「少し不安になった」と「さらに不安になった」とを合わせて3名(3%)との結果であった。

自信がついた理由としては、「知識が増えた」「技術が身に付いた」「授業の配布資料を今後活用できる」といったものが多く見られた。受講前に不安を感じていて、受講後も変わらなかった理由としては「授業で美術についての知識は身につけられたけど、果たしてそれを自分が使いこなすことが出来るのか逆に不安になった」「美術のセンスがないと気づいた」等が見られ、不安が増した理由としては「自分で作ることはできるけど自分が子どもたちに指導していくことになるのは難しいと思った」「1部の視点でしか考えられていないと感じたから。発想力、想像力にかけているなどと思った」といったものが見られたことから、アンケート対象授業について次のことが分析できる。

- ◆大半の学生に、自らが子どもへ指導することに自信を持てる程度の専門的知識・技術(技能)は伝達できている。
- ◆授業を受けてなお指導に不安を感じている学生は、知識・技術的な内容が修得できなかったことより、指導を行ううえでの方法や自らの美的

感性に対して不安を感じている。

⑧今後どのような学びが必要だと思うか(抜粋)
(表Ⅳ-3)

表Ⅳ-3 今後どのような学びが必要だと思うか
(抜粋・原文ママ)

- 知識や技術をさらに身につけること。
- 作品の幅の広さだと思います。ひとつの物を作るにしても様々の道具素材やり方がありそれをたくさん知って使いこなせるようになることだと思います。
- もっと使うその材料について詳しく知ることなどでなにか役に経つと思った。その材料によって使う材料が変わるなどと思った。
- もっとたくさんの作品を作ってどんなことにでも対応できるようにすること。
- 子どもたちがワクワクする図画工作の幅を広げるために、保育雑誌やsns等で情報を取り入れていくことが必要だと考えました。
- もっと身の回りで工夫できるものを探していくために勉強する
- やはり自分自身が様々な美術工芸を実際に体験し、面白さを理解することが大事だと思います。指導する立場がその事についてよく理解がなかったり作品作りを楽しんでないと子どもたちも楽しめなかったりわかりにくかったりすると思うので私自身今後色々な事を体験し、面白いと思ったことを共有していきたいと思いました。
- もっと想像する力が必要だと思うので、アイデアを学ぶ必要があった
- こども達にどれくらいの事ができて何に楽しみをもっていてそれを指導に組み込めるか、素材1つにとってもそれをどう生かすかの想像力の発達が必要だと思います。
- 分かりやすい説明の仕方
- 作る楽しさを分かってもらう
- 絵を描くのが楽しいのを伝えたいし、自分のしたい表現を精一杯出していくことが大事だと考えた。
- 子どもの成長過程に必要な学びが促せるようにする。子どもの立場にたって考えられるようにする。
- 子どもがやりそうな行動や、やってみたいなどと思っていることをきちんと理解していくこと

- 大人目線で考えてやるのではなく、子どもの目線から見て、子どもたちがどうやってやりやすく楽しいかを学ぶことが必要だと考える。
- 美術、図画工作の楽しさを感じさせるためにはどうしたらいいか。苦手だと言う子どもにどう対応、言葉かけしていくか。

「知識や技術をさらに身につける」「もっと身の回りで工夫できるものを探していく」といった内容が多く見られた。また、入学後半年程度の時期ではあるが、「子どもの成長過程に必要な学びが促せるようにする」「子どもの立場にたって考えられるようにする」「色んな事を体験し、面白いと思ったことを共有していきたい」「ひとつの物を作るにしても様々の道具素材ややり方がありそれをたくさん知って使いこなせるようになる」といった、『幼稚園教育要領解説』の中で幼稚園教諭に求められていることにつながっていく意見も見られた。

⑨授業の感想（表Ⅳ-4）

表Ⅳ-4 授業の感想（抜粋・原文ママ）

- とても楽しく授業ができたのでよかった。普段話せない友達とも話すことが出来たからよかった。
- 美術工芸の授業を受けて、知らない遊びなど簡単にたくさんできて子どもたちのためにできることが増えて良かったと思いました。
- 粘土や接着剤の知識が増えたり、子供対象の飾りをする練習ができた。
- 紙織物も簡単なものしかやったことがなかったので、1つの作品に色々なやり方があることが分かりました。
- 先日の施設実習では折り紙を利用者の方に教える機会があり授業の経験を生かすことが出来ました。
- 子どもに教える立場になった時に学んだ事を生かし、子どもにとっていい成長を促せるようにしたい。
- これから保育士になっても子どもたちにたのしみながら作る事を一緒に出来たらいいと思います。

- 思い通りの作品が作れた時はすごく嬉しかったので、そういう気持ちを保育で生かしたいと思った。
- 作品作りの中でも、こうしたら、こんなものができるなど、考えながら作品作りができたので、自分の想像力や表現力も深められたのではないかと思います。
- 私は中学生の時から美術の授業がすごい苦手でした。保育者になるためには美術が出来ないといけないとずっと思っていて、大学の美術工芸の授業もついていけないか、ちゃんと出来るのか不安を抱いていました。しかし、今まで自分がしたことのないことを体験したり、先生や周りの方が丁寧に教えてくれて美術工芸って楽しいって感じるようになりました。
- 小さい頃から絵を書いたり工作するのが苦手な美術はあまり好きではなかったけど美術工芸の授業を受け出して今日は何するのかなと楽しみにしていました。楽しかったです。
- 最初は大学生にもなって美術なんてする事変わらないと思っていたけれど、やっていくうちに知らない技術や道具などを知ることが出来とても楽しかったです。
- 美術工芸の授業があると知った時は嫌だなあ？と思ったけど、実際受けてみるととても楽しかったです。

「知識・技術が身に付いた」「制作活動を楽しめた」「制作活動に対する苦手意識が克服できた」といった授業に対して好意的な回答が多く見られた。

⑩「入学前の美術表現的な活動指導に対する意識」と「授業受講前の美術表現的な内容を指導する自信」との比較（表Ⅳ-5）

入学前に教育・保育施設等で勤務経験のある学生は、全員が美術表現的な内容の指導に対して不安を感じていたことが分かった。本アンケート調査は今回が初めてのため常にこの傾向があるのかは比較できないが、今回の学生については勤務中に美術表現的な内容を指導した際に満足感を感じられなかったことが予想される。

表Ⅳ-5 「入学前の美術表現的な活動指導に対する意識」と「授業受講前の美術表現的な内容を指導する自信」との比較

		オリエンテーションの時点で「保育者として子どもたちに美術工芸（図画工作）的な内容を指導する自信」はありましたか？					合計
		非常に自信を持っていた	少しは自信を持っていた	特に自信も不安も感じなかった	少し不安だった	非常に不安だった	
入学前は、将来、自分が保育者として子どもたちに美術工芸（図画工作）的な内容を指導することを意識していましたか？	意識していた	0	17	5	19	6	47
	入学前に保育施設で働いていたので知っていた	0	0	0	4	1	5
	特に考えていなかった	0	3	9	18	8	38
	その他（入学前に小学校で勤めていたのを知っていた。）	0	0	0	0	1	1
合 計		0	20	14	41	16	91

⑪「授業受講前の美術表現的な内容を指導する自信」と「授業受講後の美術表現的な内容を指導する自信」との比較（表Ⅳ-6）

不安を感じていた学生57名のうち、授業受講後も変わらず不安を感じている学生が6名（11%）、授業受講前に比較してより不安を感じた学生が3名（5%）の計9名（15%）であった。

授業受講前に美術表現的な内容を指導することに

美術表現的な指導に対して不安を感じている学生

表Ⅳ-6 「授業受講前の美術表現的な内容を指導する自信」と「授業受講後の美術表現的な内容を指導する自信」との比較

		『美術工芸Ⅰ』の授業を受講し終わって、「保育者として子どもたちに美術工芸（図画工作）的な内容を指導する自信」はオリエンテーションの時点から変化しましたか？					合計	
		さらに自信が ついた	少しは自信が ついた	変わらない	少し不安に なった	さらに不安に なった		
オリエンテーションの時点で「保育者として子どもたちに美術工芸（図画工作）的な内容を指導する自信」はありましたか？	非常に自信を持っていた	0	0	0	0	0	0	20
	少しは自信を持っていた	4	13	3	0	0	20	
	特に自信も不安も感じなかった	0	10	4	0	0	14	14
	少し不安だった	0	35	4	2	0	41	57
	非常に不安だった	0	13	2	1	0	16	
合 計		4	71	13	3	0	91	
		75		13	3			

をフォローすることも今後の課題であるが、これについてはアンケート⑦から得られた、授業内容が修得できなかったことより指導方法や自らの美的感性に対して不安を感じている者が多いとの結果を参考とし、次のような対応を検討したい。

- ◆指導方法に対する不安については、今後卒業までに授業や実習をとおして身に付けていけばいいこと、指導方法に関する別の科目が開設されておりそこで補完されることなどを説明する。
- ◆美的感性に対する不安については、幼稚園での美術的表現活動においては美術作品を制作することではなく、表現活動を楽しみその喜びを感じさせることが求められていることを説明し、まずは美術表現活動を楽しめるようになることを勧める。

IV-4-3. アンケート考察

今回のアンケート結果から分析できた内容を以下にまとめる。

- ◆学生は、自身の経験や本学での学びから働く姿をイメージし、それに有益と考えられる課題を好む。
- ◆半数程度の学生は、入学前に、将来就職先にて美術表現的な内容を指導することを意識している。
- ◆半数以上の学生が将来就職先にて美術表現的な内容を指導することについて不安を感じている。特に今回の調査では、入学前に保育施設・小学校で勤務経験のある学生については、全員不安を感じていた。
- ◆授業受講後は、大半の学生が美術表現的な内容を自らが子どもに指導することについて自信を持っている。不安を感じている学生も、授業内容が修得できなかったことより、指導を行うための方法や自らの美的感性に対して不安を感じている。
- ◆入学半年の時点で、幼小連携の意義や『幼稚園指導要領解説』で求められている「幼児が自己表現をしようとする気持ちを捉え、必要な素材

や用具を用意したり、援助したりしながら、幼児の表現意欲を満足させ、表現する喜びを十分に味わわせること」や「幼児と感動を共有すること」を意識できている学生もいる。

- ◆「今後どのような学びが必要だと思うか」に対して、「知識・技術をさらに身につける」「子どもの気持ちを知る」「子どもの立場にたって考えられるようになる」といった回答は見られたが、幼小連携に関する回答は見られなかった。

よって、アンケート対象科目における履修者の学修成果は、以下のように分析できる。

- ◆多くの履修者が、子どもに対し美術表現活動の指導を行うことに自信を持てる程度の専門的知識・技術（技能）は身に付けられている。
- ◆専門的知識・技術（技能）が身に付いても、指導方法や自らの美的感性に対して不安を感じている学生が少数ながら存在する。
- ◆多くの履修者が幼小連携についてはあまり意識できていない。

IV-5. 美術表現に関する新設科目に求められる教授内容の分析

『幼稚園教育要領開設』、本学学生の就職先へのアンケート結果、履修者へのアンケート結果から、幼稚園教諭には実践的な知識・技術（技能）が身に付いていることや子どもの気持ちを理解し共感できることが求められており、アンケート対象科目履修者はその多くの者が美術表現に関する知識・技術（技能）が身に付いているものの、それらが身に付いても子ども達へ指導することや自らの美的感性に不安を感じている者も少数ながらいること、また幼小連携に関する意識は多くの者がまだ持っていないことが分かった。

大半の履修者が美術表現活動を子どもに指導することについて自信を持っていることから、美術表現分野に関しては平成27答申の「教員となる際に必要な最低限の基礎的・基盤的な学修」はできていると考えられる。また、就職先へのアンケート調査で求められていた現場にて実践する能力についても、最

低限は達成できていると考えられる。

よって、美術表現に関する新設科目に求められる教授内容は、現行科目で行っている専門的知識・技術（技能）を身に付けるための内容に加え、幼稚園で行われている活動が小学校の科目内容にどうつながっていくのかを理解するための内容を教授することと考える。また、教職課程の他の科目と連携し、指導方法に関する不安を薄めていくことも必要である。

今後は、授業開設に向けて本考察で得られた内容を踏まえた具体的な教授内容の検討が必要であるが、その際には第1章にて触れた、教職課程の課題としてあげられている「大学教員の研究的関心に偏った授業が展開される傾向があり、教員として必要な学修が行われていない」状況にならないよう、幼稚園教諭に求められている専門的知識・技術（技能）について『小学校学習指導要領解説』等も踏まえ、より詳しく分析していきたい。

V おわりに

本考察では、新たな教職課程とそれに応じる本学新カリキュラム構想を踏まえ、新設予定科目の授業の内容について、教育職員免許法施行規則、『幼稚園教育要領解説』、本学キャリア支援センターアンケート結果、筆者が授業内で行ったアンケート結果から求められる授業内容について検討してきた。

筆者が授業内で行ったアンケート調査は今回が初めての試みであり、またデータ数も90名程度と少ないが、学生が将来どのような専門的知識・技術（技能）が必要と考え、今後どのような内容を身に付けたいと考えているのかを把握することは、より充実したカリキュラムを構築していくうえで有益と思われる。よって、今後も意識調査を継続し、「大学が独自に設定する科目」として開設が予定されている科目群についても同様の意識調査を行い、結果を比較検討することで教職課程として求められていること明らかにし、科目間の連携も検討することで、本学にて質の高い教職課程を編成することに寄与したいと考える。

謝 辞

授業アンケートに貴重な意見を回答してくれた学生の皆様、卒業生の就職先へのアンケート結果をご提供いただいた本学キャリア支援センターに深く感謝を申し上げます。

引用文献

- 1) 中央教育審議会，平成27年12月21日，これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～（答申），文部科学省，p.32
https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2016/01/13/1365896_01.pdf
（参照 2020.11.27）
- 2) 中央教育審議会，平成27年12月21日，これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について（答申のポイント），文部科学省
https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2016/01/13/1365896_02.pdf
（参照 2020.11.27）
- 3) 前掲1），p.31
- 4) 前掲1），p.32
- 5) 文部科学省，教員養成に関する法令改正及び教職課程の認定，文部科学省，p.1
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2019/08/09/1415122_1_1.pdf
（参照 2020.11.27）
- 6) 文部科学省，平成29年11月17日，教育職員免許法施行規則及び免許状更新講習規則の一部を改正する省令の公布について（通知），文部科学省
https://warp.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/11402417/www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/1398706.htm
（参照 2020.11.27）
- 7) 教育職員免許法施行規則，附則（平成二九年一月一七日文部科学省令第四一号）第7項
<https://elaws.e-gov.go.jp/document?lawid=>

- 329M50000080026
(参照 2020.11.27)
- 8) 文部科学省, 事後調査対応届作成要領 (令和元年度改定), 文部科学省, p.1
https://www.mext.go.jp/content/1414801_1.pdf
(参照 2020.11.27)
- 9) 文部科学省, 平成29年7月24日, 教育職員免許法・同施行規則の改正及び教職課程コアカリキュラムについて (平成29年7月24日版), 文部科学省, p.23
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/__icsFiles/afieldfile/2017/07/27/1388004_2_1.pdf
(参照 2020.11.27)
- 10) 文部科学省, 平成30年1月9日, 【資料4】教職課程再課程認定等説明会質問回答集 (平成30年1月9日版), 文部科学省, p.16 No.187
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/__icsFiles/afieldfile/2018/01/16/1388004_6.pdf
(参照 2020.11.27)
- 11) 無藤隆 他, 平成29年3月, 平成28年度幼稚園教諭の養成課程のモデルカリキュラムの開発に向けた調査研究—幼稚園教諭の資質能力の視点から養成課程の質保証を考える— 3 領域及び保育内容の指導法に関する科目 (1. 科目構成の考え方), 一般社団法人 保育教諭養成課程研究会, p.8
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/__icsFiles/afieldfile/2017/05/19/1385791_6.pdf
(参照 2020.11.27)
- 12) 文部科学省初等中等教育局長 高橋道和, 平成29年11月17日, 教育職員免許法施行規則及び免許状更新講習規則の一部を改正する省令の公布について (通知), 文部科学省
https://warp.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/11402417/www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/1398706.htm
(参照 2020.11.27)
- 13) 前掲10), p.16 No.186
- 14) 前掲10), p.17 No.203
- 15) 教員養成部会, 平成29年11月17日, 教職課程認定基準, 文部科学省, p.3
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/002/siryo/__icsFiles/afieldfile/2017/12/08/1399160_07.pdf
(参照 2020.11.27)
- 16) 文部科学省, 教職課程認定申請の手引き (教員の免許状授与の所要資格を得させるための大学の課程認定申請の手引き) (令和3年度開設用), 文部科学省, p.33
https://www.mext.go.jp/content/20191213-01-000003171_1267643_01-1.pdf
(参照 2020.11.27)
- 17) 前掲9), p.6
- 18) 前掲10), p.17 No.197
- 19) 前掲1), p.16
- 20) 文部科学省, 平成30年2月, 幼稚園教育要領解説, 文部科学省, p.28
https://www.mext.go.jp/content/1384661_3_3.pdf
(参照 2020.11.27)
- 21) 前掲20), p.67
- 22) 前掲20), p.227
- 23) 前掲20), p.231
- 24) 前掲20), p.232
- 25) 前掲20), p.243
- 26) 前掲20), p.246

2020『美術工芸Ⅰ』の振り返りシート

『美術工芸Ⅰ』の授業を振り返り、以下の質問に回答してください。

■振り返り課題の目的

□学生

- ①本授業内で学修した知識・技術や授業への取組姿勢を振り返り、自らの学修成果の確認を行う。
- ②将来、保育者になる上で、自己にとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技術等を補うための目安とする。

□担当教員

学生の授業への取り組み姿勢、達成度、意識の変化や授業内容に関する意見を把握することで、今後の授業の改善、教育の質の向上を図る。

○学籍番号

○氏名

○『美術工芸Ⅰ』の授業を振り返り、体験して良かったと思った課題があれば、その課題を選択してください。（複数選択可）

- 折り紙、□切り紙、□色相環、□色彩心理（喜怒哀楽）、□和紙染め、
□切り紙のランプカバー、□紙織物、□毛織物、□毛糸で描く羊の絵、
□粘土の人形、□飛び出す絵本、□特になし

○上の質問で体験して良かった課題があった場合、その理由を書いてください。

○『美術工芸Ⅰ』の授業を振り返って、自分自身の授業への取組姿勢（授業態度は良かったか？、課題制作するうえで努力・工夫したか？、知識・技術が身に付いたか？ 等）を5点満点で自己採点してください。

1. 5点、2. 4点、3. 3点、4. 2点、5. 1点、6. 0点

○上の質問の得点を決めた理由を書いてください。

本科目のオリエンテーションで履修者の到達目標を「小学校～高校までの美術の授業で学んだ美的なものへの愛好心・感性的なことに加えて、保育者として子どもたちに指導するための知識・技術を身につけ、活用できる」だと説明しました。

○入学前は、将来、自分が保育者として子どもたちに美術工芸（図画工作）的な内容を指導することを意識していましたか？

1. 意識していた、2. 入学前に保育施設で働いていたので知っていた、
3. 特に考えていなかった、4. その他

○オリエンテーションの時点で「保育者として子どもたちに美術工芸（図画工作）的な内容を指導する自信」はありましたか？

1. 非常に自信を持っていた、2. 少しは自信を持っていた、3. 特に自信も不安も感じなかった、4. 少し不安だった、5. 非常に不安だった

○『美術工芸Ⅰ』の授業を受講し終わって、「保育者として子どもたちに美術工芸（図画工作）的な内容を指導する自信」はオリエンテーションの時点から変化しましたか？

1. さらに自信がついた、2. 少しは自信がついた、3. 変わらない、4. 少し不安になった、5. さらに不安になった

○上の質問で、プラスマイナスどちらにせよ自信に変化があった場合、その理由を自分なりに分析して書いてください。

○将来、保育者として子どもたちに美術工芸（図画工作）的な内容を指導するために、自分自身にとって、今後どのような学びが必要だと考えますか？

○最後に『美術工芸Ⅰ』の授業の感想を記入してください

以上で振り返り課題の質問は終わりです。お疲れさまでした。

